

第一貨物



特種車を軸に高度な物流を追求

第一貨物(本社、山形県 武蔵野社長)は12月で、今年最終年度とする第十の三万中期経営計画を終え、来期から新たな中期計画をスタートさせ、三年間(1)運費改善(待機改善)の効率化(二)三つを軸に取組んできた。平成二十四年十月自動車販売を手掛ける企画興業を統括発足し、持株会社「ディー・ディー・ホールディングス」を設立したのを機に、中期計画の位置付けもより戦略的なものに変化。同時に、品質向上も待機改善の施策の根幹にある。

輸送力の安定に注力 都市間輸送、担い続け

るのは長距離輸送サービス(丹波社)も設立。久保運送との東北・九州間の乗継の安定供給。各地域での集配と都市間輸送にも特種な事業の確保(日午前中配達を実現したドライバー)、運送員不足を長距離ドライバー不足から全面的な労働力不足に備える低価格で全国に届ける特種車が「ディー・ディー」の要請に合わせた型には待機を引き上げる必要があるが、顧客の要望に合わせた物流の自社比率は八割を確保している。ドライバーの確保は、送効率化(ベテラン化)も進め、輸送コストを削減する。第一貨物は3PLについても業界に先駆けて提供している。地域での力企業との提携も深める。ドライバーを、これからの多様な共同化を図るための方針。

ここに注目!

配達時間を予測・照会

三年間中期計画で、顧客と普及双方の荷が確保できているのが、現在、格別と注力しているのが、運用に向けて実験を進めている。荷物が「1年以内」で配達時間事前案内(Pre-arrival Service Time)の提供、ドライバーの「1つの荷物」について、集荷から配達までのあらゆる稼働情報を知ることができ、顧客との対応も強化できる。



荷主企業から

物流を二任、知見も豊富

乗継運行で品質が向上

全ての販売物業務を二任して、

「当口受注・当日出荷が基本で、午前10時までに受注したものを翌午後に出荷している。菓子類の待機で発生量が日々変化。夏場は一日当たり三万、四万ケースのところが、冬場は五万、六万ケース。また、部分商品が加わる。十二月は一年で最も忙しく、チャーター便数が通常の二〜三倍の五台以上出稼する。近年、東北エリアは配車の手配が難しくなっており、第一貨物さんと協議し、元山形の良質な水気乾燥あ

て、この冬から新たな在庫・出荷体制にチャレンジした。群馬県に一時的に施設を用意し、約十五万ケースの在庫。そこから全国へ配達するようになった。以前は同じ山形県内で一時在庫を持つて対していたが、車両不足から、東北エリアでの車の調達が形になった。部分商品の配車を確保し、東北エリアでコストは増え、販売先からの納期要請も厳しいことが多かった。

る。半面、全国配送を考えると、今後の物流体制をどう構築していくかが重要な課題といえる。在庫保有を含めた後の体制も検討している。傾向として問題センターの集約によるロット化が進み、多品種少量でも一口三〜四百ケースの出庫が多い。先述のとおり、東北エリアだけの配車は徐々に難しくなっている。冬場は積雪もあり、路線便主体のいまの形で納期を確保した顧客ニーズに

研究していく必要を感じている。集道への干渉やドライバーを持つことも検討の余地がある。第一貨物さんと久留米運送さんのシニアハンド(乗客)は、若手のコスト増があっても、納期短縮商品質向上の面を評価している。

今期、品質向上には特に力を入れてきた。一例が写真やカメラの映像記録を用いた改善。運行の出発前、到着後の積荷の様子を写真撮影し、荷崩れが見つかると場合はドライバーに注意喚起や指導を実施。運行中の荷物の揺れや移動で乗客を乗降させ、乗客の揺れや移動で乗客を乗降させ、乗客の揺れや移動で乗客を乗降させる。乗客の揺れや移動で乗客を乗降させる。乗客の揺れや移動で乗客を乗降させる。



武蔵 幸規社長

品質向上、さらに

たてて写真を撮り、責任所在を明確化するために、商品交換も再確認し、配達するケースもある。また、トップ現場の対話の場であるオンライン・ドーム・ミーティングでは、マナーを定めた品質についても高品質を意図して行っている。交通事故は長年の取り組みの結果、激減し、且つ未発着に抑えられつつある。同時に、食料物の取り扱いでも、最終的に物言うのは注意や現努力。こういった丁寧な取り組みを重視し、費用も抑えている。何より、当社の従事者には改善力があると感じている。



でん六
営業業務部
物流センター課長
木村 和広氏

企業概要

本社設立	山形市廣町2ノ1ノ20
資本金	昭和16年3月
従業員数	1億円
車両台数	4,252人
事業所数	3,927台
主要荷主	69店
	でん六、ヤマダ電機、スリーエムジャパン、マルサンアイ、大日本精工、日本食研
主要営業エリア	北海道圏、東北圏、北陸信越圏、関東圏、中部圏、近畿圏
事業種目	貨物自動車運送、貨物利用運送、物流システムの設計・運用・管理の委託に関する事業、航空運送代理店、通関、倉庫、荷造りなど
売上高	681億8100万円(平成27年3月期)